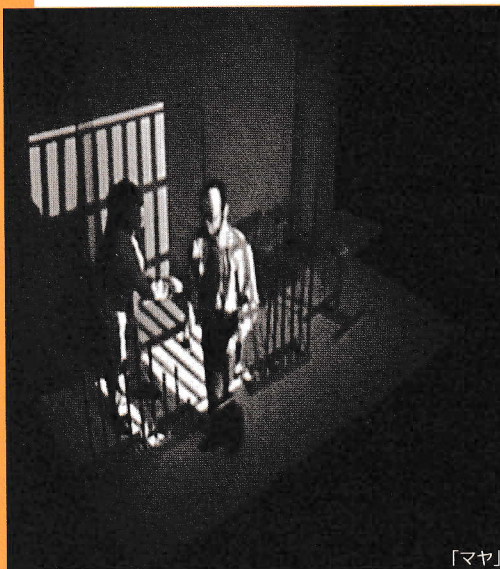
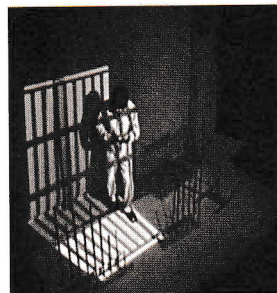




「マヤ」



「マヤ」

会場であるスペースベンに入った途端、ふと目に入ったのは舞台らしき所でウロウロしているスタッフだった。まだ舞台のセッティングが出来ていないのかと思いきや、やっぱり地方のアマチュアだなあと勝手に誤解していた。席に着き5分、10分と時間が過ぎても、例のスタッフはまだウロウロしたまま。それどころか、横になってゴロゴロして、その不思議な光景に、私も含めて観客は目を丸くした。暗転になり、芝居が開演してようやく演出の一部だと理解する事となった。

スタッフと思われた彼を含めた3人の朗読劇が、幕を開けた。

朗読、というと、私達一般のイメージではよくNHK等で有名な女優、俳優がイスに座り、本を読むという姿が連想される。「ああ、退屈だなあ」、一時間の我慢だと覚悟していた。

ところが、さつきまで寝転がっていた男は普通にセリフを発し、朗読ではなく芝居をしていた。自分の予想とは全く異なる形態の朗読劇が始まったのだ。

一つの芝居の中で、ある登場人物が三浦哲郎の短編集を読むという、芝居の中で展開する朗読。斬新かつ冒険的な試みにエールを送ると共に、どんな風に劇をまとめているのか気になる挑戦であつた。

監獄の中の男が看守の本を盗み見して読む「マヤ」

中年男が枝豆をむきながらラジオの朗読を聞く「あめあがり」

店員に想いを寄せる男が喫茶店で読む「かけおち」

の3本立てである。全てに置いて芝居仕立てで、本の内容と芝居の内容を同時進行させている。演じる側はもちろん、観客にも初の体験ではなかっただろうか。普通の芝居を観ながら本を読ませるくらいの器用さを必要とさせた。

演劇空間スペースベン

「陽なたと陽かげ」

文／岩館 美也子



「あめあがり」

だが、一つめの「マヤ」は朗読の方に若干力を入れていたようなので、皆が予想する朗読物に仕上がっていた。本の内容がよく分かった代わりに、芝居が監獄という設定であつたにもかかわらず、内容が見えてこなかったのが惜しかった。と、思った矢先、次の「あめあがり」は全く逆の発想で、中年男の演技に魅了され、全ての行動が気になりせっかくのDJの朗読が耳に入って来ないという次第になった。これもまた惜しい。

そして、ラストの「かけおち」。これはどちらか寄りの作品になるのかと思っていたら、本の中のストーリーと芝居の内容を少し近く設定していたせいか、朗読の内容も芝居の展開もよく理解できた。「朗読」と「芝居」が舞台の上で同時にバランス良く進行されていて、店員に想いを寄せている男は

1月のFriday Amusement Negative Shop

1月6日(第622回)

【特別番組・ライブ】勝手に新年会
料金／無料 ※各自、飲食物持込歓迎!

1月13日(第623回)

【crossing cafe file.3】～新たな挑戦～ 案内人：田中勉

1月20日(第624回)

【crossing cafe file.4】～匿名掲示板風に語れ! 何か最近面白いの観た? ソレの何処が面白いのよ?～ 案内人：安達良春

1月27日(第625回)

【crossing cafe file.5】～ひま人は、やはり復活しないのか～ 案内人：田中勉

【crossing cafe file.】とは?
「モノ創りには、だる場が必要だ」ということで、モノ創りの夢を語る場を開きます。経験、年齢、性別不問です。そこから生まれたことを素材に、6ヶ月先の公演を目指します。興味のある方は、ぜひ参加下さい。

※特別番組以外全て午後7時30分～、料金/一般500円 高校生以下100円 ※料金改定しました! 高校生以下は、特別番組以外100円でご覧になれます。チケットはスペースベンにて販売。スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい。

tsutomu_tanaka ☎070-5095-2028
スペースベンHPアドレス <http://spaceben.com/>
Eメールアドレス owner@spaceben.com

演劇空間 スペースベン
八戸市柏崎1-11-8
☎ 0178-43-9876
FAX 050-3588-8350

本の世界を表現し、女は喫茶店の店員のまま、同じ舞台にいる。目の前にいる2人は同じ本を手にし、同じ空間を共有しているのに全く違う世界にいたのだった。

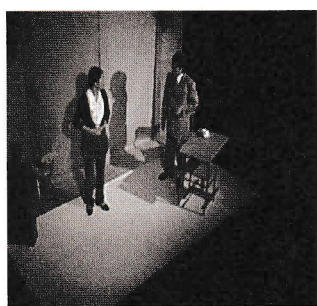
私は最初に朗読を聞いて、次に芝居を観、最後に朗読劇を観たのではないだろうか。朗読と芝居を交えるという、新しい表現に驚き、戸惑い、そして最後は納得出来た。

今までに、三浦哲郎の作品に全く触れた事がなく、もちろん短編も読んだ事はないのだが、3人の演技並びに挑戦によって、初めてその世界の一端に触れる事が出来た様な気がする。3作品とも、異なる物語であったのに、偶然か、似通った純朴な男性の姿がそこにはあった。

出演／安達良春、木根寿恵、田中勉
上演作品／「マヤ」「あめあがり」「かけおち」

日時／11月12・13日
上演作品／「マヤ」「あめあがり」

青森県民文化祭参加作品
「陽なたと陽かげ」



「かけおち」